

<1月のギャラリー展示>

『新聞きりがみ』

■ 展示説明文

2022年新しき年の始まりの1月は、1000枚の富士山の切り紙の一部を展示しました。数雄さんの新聞切り紙は、材料が身近な新聞紙と新聞紙に挟まれる広告物から作られています。数雄さんがこの新聞切り紙を始めたきっかけは、母親が脳出血で倒れ老老介護になったときに、無趣味な父を心配して脳トレにと娘が出した宿題がきっかけでした。最初は「そんなもんせん」という父・数雄さん。娘は「この宿題をしないと毎週ごはん作りに来ないからね」と、なかば脅迫。でも、いつのまにか、朝刊を読んだ後どこが使えるかを見て手を動かし続けた数雄さんは切り紙に夢中になりました。釣り少し好きだったこともあり魚の切り紙からはじまり、富士山は車椅子の妻と一緒に娘たちが連れて行った河口湖のバリアフリーのホテルで旅した時から。1000枚という枚数も娘が展覧会をするからという宿題。香川県生まれの数雄さんは、讃岐富士はつるんとした形で切り抜き甲斐がないと、富士山を好んで切られたそうです。切り紙に夢中になった数雄さんの三年半。最後の半年間は自身が肺がんになり、闘病中も切り紙の存在が数雄さんの生き甲斐となって、手と心を動かされていたそうです。

■ ボランティアさんの繋がり説明文

『院内のカフェの展示』数雄さんが新聞紙で作った深海魚の切り紙は、コロナ禍でクローズになっていた院内のカフェを、目にする人の会話がはずむ楽しい空間を作ってくれました。

